

避難民へ平和のピアノ

伊那で平沢さん慈善リサイタル

ロシアの軍事侵攻でウクライナを追われた避難民を支援しようと、伊那市在住

のピアニスト平沢真希さん(五七)が二十七日、チャリティーリサイタルを同市のニシザフいなっせホールで開いた。

平沢さんは一九九三年から十六年間、留学先のポーランドを拠点に音楽活動した経験があり、同国がウクライナ避難民を最も多く受け入れていることから、親交のあるNPO法人クラシ

ックワールド事務局長の北沢理光さんの発案で演奏会を開いた。

ポーランド出身シヨパンの「ノクターン遺作」、マズネの「タイスの瞑想曲」などの名曲と、自身のオリジナル曲を披露。演奏の合間に「ウクライナで演奏した時に、共演したオーケストラの音がものすごく深く感動した。あのホールが今どうなっているのかと思う」と言葉にならない」と語った。最後に唱歌「故郷」

を奏でると、来場者も一緒に歌を口ずさんでいた。

伊那市の堀内香さん(五八)は「平沢さんの平和への願いや、ふるさとを愛する思いがとても伝わってきた」と演奏に酔いしれた様子だった。

リサイタルの収益金と会場で集めた募金計二十五万七千二百三十一円は、ウクライナ避難民の支援金としてポーランド政府に届ける。平沢さんは「人の温かさや思いやりを感じたりサイタルだった。それが世界中にどんどん広がってほしい」と願っていた。

(中沢稔之)



情感たっぷりにピアノを奏でる平沢さん
＝伊那市のニシザフいなっせホールで